

第七回 REKIBUNTAI 報告書

テーマ「書道～ひさしぶりに筆をもってみませんか」

担当：高木紀世子 協力：石川幹夫

開催日：2025年11月8日（土）AM9:30～11:30

場所：プラサ杉田505

参加者：8名（1964～1981卒）



第七回は高木耕游（書道の雅号）による「書道～ひさしぶりに筆をもってみませんか」を行いました。定員10名程度で、11名の申し込みがありましたが、3名のキャンセルがあり合計8名の参加でした。

最初に「習字」と「書道」の違いの説明をしました。「習字」は文字を正しく、上手に書くことを習うものです。奈良時代の木簡に字を練習したことがわかるものもあります。源氏物語の「手習」も習字です。「書道」は「道」がつき、「道」のつくものには哲学が含まれます。墨をするという行為自体が墨の香りを感じながら瞑想をしていることになります。書道は墨で自己表現を行う芸術であり、書を見るとその人の性格がうかがえます。

日本の能書家の三筆（平安時代初期）「嵯峨天皇」「空海」「橘逸勢（たちばなのはやなり）、平安時代中期の三蹟に「小野道風」「藤原佐理（すけまさ）」「藤原行成（ゆきなり）」がいます。いずれの書もすばらしいですが、たとえば昨年の「光る君へ」で藤原道長のそばで仕えていた藤原行成の書は端正で優秀な官僚だったことが伝わってきます。一方、藤原佐理の書は彼の波乱盤上な生き方がわかる書です。誰の書が好きかきいただけでその人の感性や性格がわかったりします。



少しだけ講義

みなさんに書道との関りについてひとことづつ述べてもらいました。全員が長い間筆をもったことがないとのことでした。

さて、いよいよ書道体験です。前もって好きな漢字を選んでもらいました。そして、「今日は書道なのでお手本は書いてきましたが、上手に書こうとしないで自分の書きたいように書いてください。その前にまずは墨をすりましょう。2人で一つの硯ですってください。墨はまっすくに前後させて300回くらい（ひとり150回）無心ですってください。墨汁は使いません」とお話ししました。

墨をすり始めるといい墨の香りがしてきて、みなさん人が変わったようにし～んと、雰囲気が変わりました。神聖な場所にいるかのようなようでした。

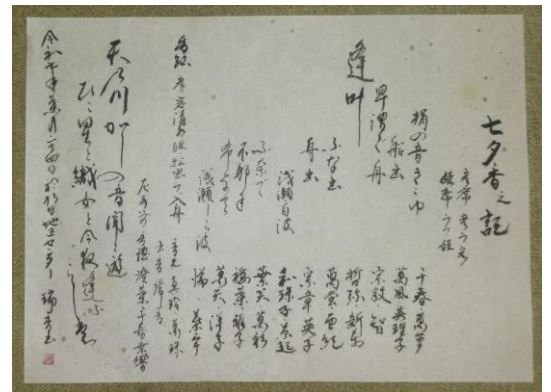
その後、選んだ漢字を書く練習を少して（ほとんど指導はなし）、色紙にその漢字を表す、イメージを折り紙で貼ったり色鉛筆で描いたりして、その上にかぶせるようにその漢字を書くのです。みなさん、意外と早く字を書き終え、折り紙や色鉛筆にとりかかりました。折り紙はハサミや糊を使い、色紙に貼るというまるで子供のような作業ですが、これが実はそれぞれ個性がよく出ます。わたしは興味津々で眺めていました。そして、みなさんの作品が出来上がりました。まあ、なんて味わい深い7作品！感動しました。今回ご参加できなかった方もぜひ、7名の素敵な作品をご覧ください。



静かに墨をする森田さん

感想は無記名にしていますが、写真や内容を見ると誰の感想かわかってしまいますね。「誠」を書いた森田さん(もう誰の感想かバレバレなので)が触れておられる「七夕香」の書(漢字と仮名混じり)も添付いたします。ランチ会は今回「オリヴィエラ」という若い男女、女性が多いイタリアンにしました。(高木)

- 半世紀ぶりの硯と墨に心が癒されました。色紙への貼り紙やカラフルな下絵も新鮮な驚き、楽しい体験、ありがとうございました。
- 本当に楽しいひと時でした。無になって墨をするという体験をして、70年前の自分に戻り、その時の友人の顔、彼女のことが思い起こされ、素晴らしい時間でした、本当にありがとうございました。
- 字を書くだけでなく、様々な思いを込めたパフォーマンスのように感じました。性格なども反映するようで、とても奥深いと思いました。楽しいひと時をありがとうございました。
- 中学校以来の書の体験する機会をいただきありがとうございました。筆に弾力があるとの感覚は初めてでした。書にも序破急があり、謡との共通項を発見しました。
- 香道の七夕の報告書の素晴らしさに感動しました。習字と異なり書道の哲学があり自由な発想でアートすることに感銘を受けました。参加時点で誠の楷書、行書体が示されていて一所懸命に書けました。誠から想像するより書道と言うイメージでかつKGとその道を作品にいったことは嬉しい出来栄でした。墨をするものの考え方も教わり墨汁は使わないで一から水を入れ墨を使いたくなりました。家のピアノの上に作品を飾って今も楽しんでおります。
- 久しぶりに書道を体験しました。孫の書道道具一式をもらって参加しました。しばらく使っていなかったもので、墨もカチカチだろうと思っていましたが、意外と柔らかかったです。漢字は「花」を選びました。娘の名前なので、書いているときに娘の顔がちらついてやりにくかったこともあり、自分の予想に反した字になりました。でも、花らしい折り紙を使って作品を作るのは楽しかったです。今、パパの写真の横に飾っています。
- 歴文体の講座は興味津々で、今回の書道体験はとても楽しかったです。でも、書道は今回で一応終わりと聞いてショックでした。書道はまたやって欲しいです。その時は「和歌」を書いてみたいです。歴文体の次の3月14日の三味線には参加いたします。



七夕香の記録



漢字の練習風景



7名の作品(すてきですね！)

ランチ会

写真提供: 槇、山田、森田 * * *

REKIBUNTAI 次回以降の予定

2026年1月はお休みです。

第8回: 2026年3月14(土) 10:00~11:30 三味線・端唄などプロから紹介、演奏していただく

第9回: 2026年5月8日(土) 10:00~11:30 内容未定